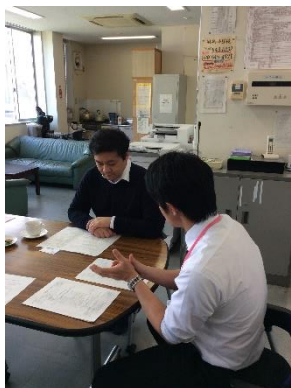


# はばたきHP版

大分大学教育学部

附属小学校

平成29年4月13日



秦先生と授業の  
打ち合わせ中。

中国の方のふりをして  
いただきました。さ  
あ、みんなの英語は通  
じるかな？

昨年度12件の視察を受け入れた本校ですが、今年度の第1弾で笈川幸司さんが本校に来てくださいました。笈川さんは、中国の北京大学や清華大学で日本語教師として教鞭をとり、日本語のスピーチコンテストの優勝者を百数十名輩出してきました。現在は、中国を拠点として日本語教育の推進を進め、これまで27カ国を回っています。その功績が称えられて、平成28年度外務大臣賞を受賞しました。まさに「グローバル感覚」を身に付けた「グローバル人材」そのままの方です。今回私的な用事で九州に来るという連絡を受けましたので、大分に立ち寄って頂き、附属小中学校の子どもたちの様子を見ていただきました。

今回は新学期間もないという事で、6年1組の外国語の授業に飛び入り参加して頂きましたが、7月には中国をはじめとして世界を飛び回ってらっしゃる先生ならではの話をしていただければと考えています。

附属小の皆さんは背筋がピシッと伸びていいですね。女の子はもっと元気出していいですよ。世界では女性がどんどん自己主張して活躍してますよ。(笈川先生談)



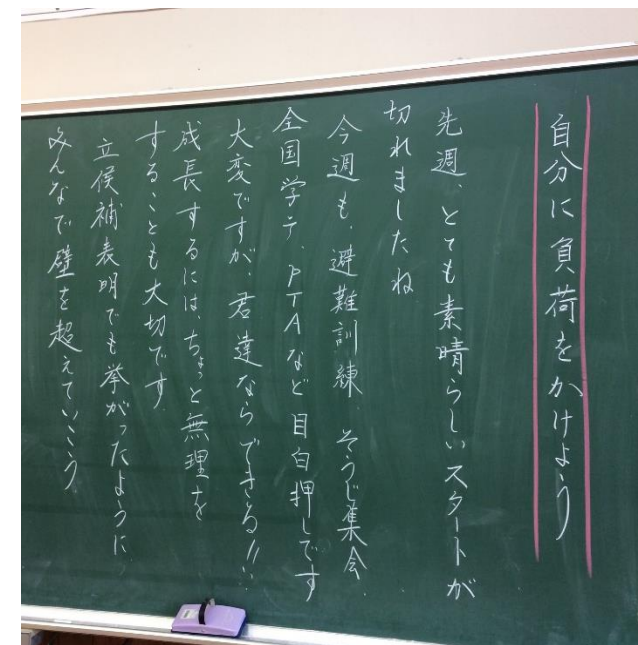
# ほぼたきHP版

大分大学教育学部

附属小学校

平成29年4月14日

新学期が始まって1週間がたちました。どのクラスも信頼関係やルール作りに力を入れています。1年生は机の中の整理整頓について時間をとって指導していました。学習規律はとにかく最初が肝心です。



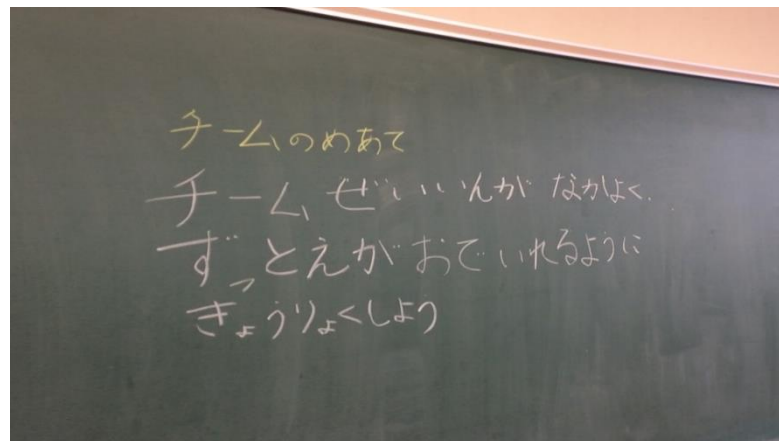
この時期は、先生方の「ライン」を示す時期でもあります。何を大事にしているのかという価値観もその一つだと思います。「ありがとう」「ごめんなさい」とてもシンプルだけど、人間関係を作っていくうえでとても大事な言葉です。

「負荷をかける」というちょっと難しい言葉を実際の体験と照らし合わせて使う事で子どもたちにとっては「生きて働く言葉」として落ちていきます。今の子どもたちは「すごい」とか「うれしい」とか簡単な言葉しか使わない（語彙が少ない）というようなことをよく耳にしますが、それは、私たち大人が使わないし使わせるように仕組みでないというのも大きいと思います。

シンプルな言葉、難しい言葉。どちらも重みとよさがあります。

# ほぼたきHP版

大分大学教育学部  
附属小学校  
平成29年4月17日



今年もチーム活動が始まりました。月曜日に新メンバーで初顔合わせ。どんな感じになるかな…と想像のぞいてみると、どのチームも真剣に自己紹介を聞いています。しかも、笑顔で。これは、進行をしてくれた6年生の手腕がかなり大きいのですが、それだけではないと思いました。1年間積み重ねてきたチーム活動への自信やフリートークで鍛えてきた「聴く力」(安心して話していいんだよ〜という聴くオーラ)も大きいのではないかと思います。

また、1年生にそっと寄り添う6年生の後ろ姿がとても頼もしく感じました。

